

麻布・六本木エリア

六本木中学校



昨年度からメダカの飼育に取り組んでいるとともに、メダカの数を増やし、飼育範囲を拡大しました。継続するにつれて、水草などの植物が増え、生き物が暮らしやすい環境につながっています。

麻布幼稚園



幼児がビオトープの掃除や生き物の飼育、生き物探しを行いました。小学校から譲り受けたヤゴを各学級で飼育し、幼児同士で知っていることや気付いたことを伝え合いました。

麻布小学校



環境委員の児童がビオトープ周辺の植物を調べ、QRコード付きの樹名板を設置しました。他の児童も情報端末でQRコードを読み取って調べ、植物への理解を深めることになりました。

筈小学校



ビオトープの水抜きを行う中で、ヤゴやエビなどの生き物を見付けることができました。また、今年度から環境委員会を新設し、定期的にビオトープの維持や写真撮影を行いました。

高陵中学校



自然科学部が中心となって定期的にビオトープの管理を行いました。また、授業では現状のビオトープをどのように造るかを考え、生徒間で活発な議論を行いました。

本村幼稚園



豪雨の翌日には「オタマジャクシの救出作戦」と題し、ビオトープから飛び出したオタマジャクシを池へ戻してカエルになるまで観察を継続したり、成長の様子を表現リズム活動に取り入れました。

本村小学校



環境新聞やビオトープのクイズを掲示するなど全校児童が興味を持てるよう工夫を行った結果、多くの児童が休み時間のビオトープに訪れ、異学年交流が生まれるなど動植物への関心が深まっています。

東町小学校



1年を通じて観察を行い、環境の大切さや日本の四季の美しさを実感することができました。また、クロメダカとヒメメダカという2種類のメダカを飼育することで生き物の多様性を学ぶ機会になりました。

南山幼稚園



新たにビオトープを作成し、近隣の小学校から生き物を譲り受けて飼育することで生き物と出合う機会を創出しました。生き物が過ごしやすい環境を作るため、幼児が藻や落ち葉を取り除きました。

南山小学校



みなエコ委員会がコスモスなど7種類の植物を植樹しました。さらに、授業ではより良いビオトープにすることを目標として、専門家と「かいぼり」を実施し、池の環境を整えました。

